

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和04年06月24日(金)

事務事業		コミュニティバス運行事業		担当課	都市計画課	担当係	市街地整備係	管理番号	4107		
総合計画	大項目	5 快適で利便性の高いまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務						
	中項目	2 交通アクセスの便利なまちづくり		根拠法令 個別計画等	深谷市コミュニティバス運行に関する協定書						
	小項目	2 公共交通の維持確保と交通安全の推進									
	主要プロジェクト	0 (未使用)									
事業概要		市内の高齢者や運転免許証を持たない人の市内移動の確保および円滑化を図ることを主な目的に、平成9年7月から試行運行を開始した。また、平成12年より深谷地区で本格運行を開始し、合併後、平成22年に再編した。本事業は、バスの運行事業者に対して、事業費の補助を行っているものである。									
目的 ※何のために		市内の公共交通による移動手段の確保。									
対象 ※誰・何を対象に		主に市内の高齢者や運転免許証を持たない人などの交通弱者。									
手段 ※どのように		コミュニティバス「くるリン」を市内全域で運行する。									
成果 ※何を求めるか		移動手段のない市内の高齢者など交通弱者が、円滑に移動できる。									
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NP0等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(民間事業者)									
事務事業を構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額(円)	
		一般会計	8	土木費	4	都市計画費	1	都市計画総務費	コミュニティバス運行事業	98,329,271	
本事業の 主な業務		・コミュニティバス運行業務							・		
		・深谷市地域公共交通会議運営							・		
		・							・		
		・							・		
		・							・		
		・							・		

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度別計画		コミュニティバス運行業務深谷市地域公共交通会議運営	コミュニティバス運行業務深谷市地域公共交通会議運営地域公共交通網形成計画策定	コミュニティバス運行業務深谷市地域公共交通会議運営コミュニティバス運行対策業務	コミュニティバス運行業務深谷市地域公共交通会議運営コミュニティバス再編計画策定	コミュニティバス運行業務深谷市地域公共交通会議運営	コミュニティバス運行業務深谷市地域公共交通会議運営
事業費	予算(現額)	121,102,000	124,076,000	138,803,000	127,360,000	127,418,000	126,218,000
	決算額	101,722,188	108,790,720	120,163,967	104,445,765	98,329,271	0
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		他特定財源	0	0	0	0	0
	一般財源	101,722,188	108,790,720	120,163,967	104,445,765	98,329,271	126,218,000
人件費	従事職員数(人)	1.03	1.41	1.56	0.92	0.74	0.76
	人件費相当試算※	8,012,370	10,972,620	12,263,160	7,496,160	5,743,818	6,179,824
総事業費試算		109,734,558	119,763,340	132,427,127	111,941,925	104,073,089	132,397,824

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		単位	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
	目標値	実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
実績値の算出式									
活動指標 1	運行业者への事業費負担額	目標値	百万 円	116.6	116.6	116.6	120	120	120
		実績値		97.73	97.73	97.73	107	92.91	
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
成果指標 1	運行コース数	目標値	コース	9	9	9	9	9	9
		実績値		9	9	9	9	9	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			運行コース数は、あらかじめ定められているので目標値の設定になじまない。 / 運行コース数の実績					
	実績値の算出式								
成果指標 2	1日の運行本数	目標値	便	47	47	47	80	80	80
		実績値		47	47	47	80	80	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			1日の運行本数は、あらかじめ定められているので目標値の設定になじまない。 / 実際の運行本数					
	実績値の算出式								
成果指標 3	年間運行日数（くるりん）	目標値	日	359	359	360	359	359	359
		実績値		359	359	360	359	359	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			年末年始の6日間を除く毎日 / 実動運行日数					
	実績値の算出式								
成果指標 4	年間利用者数	目標値	千人	98.33	138	138	148.7	150.3	151.9
		実績値		144.07	152.69	161.25	73.14	83.32	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			H31までの値は総合振興計画に基づく。R2以降はコミバス再編計画の値が目標値 / 運行事業者からの報告による					
	実績値の算出式								
成果指標 5	1日あたりの利用者数	目標値	人	273	401	425	414.2	418.6	423.1
		実績値		401	425	449.2	203.75	232.1	
	目標値の算定根拠/実績値の出所			成果指標 4 ÷ 成果指標 3 / 年間利用者数／運行日数					
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	運行事業者への市の事業費負担額は、前年度と比較し、大幅に削減とすることができた。その主な理由は、国の補正対応に伴い、運行補助金が増額されたことによるものである。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数は伸び悩んではいるものの、前年度比で微増とすることができた。その理由としては、北部シャトルに係る運行ルート内に大河ドラマ館や渋沢栄一記念館等、観光客向けの施設が立地していることが要因となった。また、年間を通じ欠便することなくくるりんを運行することができた。
			評価者 市街地整備係長 荒谷 匠

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	コミュニティバス「くるりん」の運行は民間事業者が主として運行しているため、効率化は図れているものである。しかしながら、デマンド運行に係る予約手法が電話のみである点等課題が散見され、ICT化を図る余地は残されている。
			評価者 市街地整備係長 荒谷 匠

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和2年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	コミュニティバス「くるりん」定時定路線は、令和2年4月から再編運行を開始し、長大ルートの解消、運賃、運行時間、割引サービスを再編した。再編運行の初期はこれまでの運行方法のイメージが強く、混乱を招く状況もあった。
達成状況及び その効果	定時定路線便は再編2年目となり、利用者からの問い合わせは大幅に減少している。また、「まごころ出張講座」を通じ、利用者に対し、デマンド運行便の活用を推進することで、円滑な移動手段の提供に寄与することができた。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	コミュニティバス運行事業	担当課	都市計画課	担当係	市街地整備係	管理番号	4107
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者 都市計画部次長兼都市計画課長 中島 隆					

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和4年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	令和4年度からデマンド運行便が再編され、利用者が市民限定となる等大きな制度改正が実施された。市としては、まごころ出張講座を開催するほか、その他幅広い手法を活用し、広く市民に対し、新制度のPRを行い、利用者数の増加を図っていく必要がある。
令和5年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	令和5年度には業務委託を実施し、地域公共交通計画を策定するとともに、令和7年度に新運行となる定時定路線便の再編成計画に着手していく必要がある。このために、「深谷市にとって望ましい地域旅客運送サービス」の姿の明確化を図るため、交通事業者や関係者等と協議を重ねていく。

8. 評価指標グラフ

